

第 4 回地域検討会（沖縄県）での指摘事項に対する対応（案）

(1) 第 3 回地域検討会議事概要及び指摘事項

指摘事項なし

(2) 平成 20 年度実施計画(案)

1	<p>【指摘】前回の委員会でも意見が出されているが、マングローブ林等の海岸植生帯の状況把握については、独自調査の様な形で何か考えているのか。</p> <p>【対応】調査の実施は計画していないが、第 5 回クリーンアップ調査後に、漂着ゴミマップに付加する海岸の情報収集を実施した。その際に代表的な海岸の海岸植生帯の状況も視察している。</p>
---	--

(3) クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要

1	<p>【指摘】「他地点との比較（ペットボトルとライターのラベル表記言語による国別集計結果）」については、東南アジアからも流れてくるというのを報告書の中のどこかで反映できたらいいのではないかと思う。この八重山では東南アジアの各国から、少ないながらも流れてくるというような傾向が見られる。そういう全国との違いみたいなものが、このグラフの中に少しでも反映されると、今後の漂着ゴミの議論の中で参考になるのではないかと思うが。</p> <p>【指摘】同じく「他地点との比較」について、この地域では海流を考えると、例えばフィリピン製などはよく漂着するのではないか。また、八重山ではバーコードで判断すればヨーロッパ産のものも確認できるが、それは恐らく、船舶から捨てられたものではないかという気もする。この様に考えられそうなものは、データを整理する際に注釈か何か付けておいたら良い。</p> <p>【対応】「他地点との比較」では、各モデル地域間で比較しやすいように、現在の形で整理させて頂いている。なお、地域検討会報告書 章・独自調査結果の最後に「ペットボトルと飲料缶の全数調査」を記載した。2 月の西表島調査時に中野海岸においてペットボトルの全数調査(ラベルとバーコードの読取り調査)を実施しており、ここでは漂着したペットボトルから読取れた国別の割合を全て整理している。</p> <p>陸起源か船舶起源かの判断については、現在のところ有効な手法が無いため、整理検討は行っていない。</p>
2	<p>【指摘】前回の検討会で発泡スチロールの減容剤が紹介されたが、あの様な方法を西表島や石垣島に導入した場合には、処理費用は変わってくるのか。</p> <p>【対応】この地域の漂着ゴミは、容量でいえば約半分近くが発泡スチロールであるので、上手く導入できれば、コスト減になる可能性がある。【現在調査検討中】</p>

3	<p>【指摘】発泡スチロールの減容だけでなく、ペットボトルや他のプラスチック製品も細かく砕いてしまえばもっと減容できる。そうなれば輸送コストが非常に安くなると思う。減容するだけではなくて、家庭ゴミと同様に漂着ゴミもできるだけリサイクルする仕組みを考えていった方が良い。</p> <p>【対応】現時点では、島内に漂着ゴミを減容・破砕する施設は無く、リサイクルについても漂着ゴミの素材が確認できないなど導入には課題が存在する。今後も当該地域に導入可能な減容の手法及びシステムについては可能な限り情報を収集し、地元自治体や関係機関等と導入に向けての検討を実施していく。</p>
---	---

(4)その他の調査の進捗状況

1	<p>【指摘】(観光資源価値向上の検討に係る調査に関して)単に観光客といっても、団体客やマリナーレジャー目的の人達もいると思うが、調査対象としてそれぞれの目的の割合をしっかりと考えておかないと偏った調査になりかねないと思う。そのへんはどう考えているか。</p> <p>【対応】アンケート調査では、観光の目的についても調査項目に含めているが、サンプル数をできるだけ多く確保することを主眼において調査を実施したため、それぞれの観光目的のサンプル割合の調整は行っていない。</p>
---	---

(5) 地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について

1	<p>【指摘】石垣島の現状の回収・運搬処分のシステムはシステム化されており非常に良い形になっている気がする。ただし、清掃回数が増えたり、回収されたゴミの量が多いと、予算上の問題が生じてくる。この石垣島のシステムを年に何度も行える様にしていくべきである。一方、西表島の場合は、まだ石垣島のようなシステムができていない。これについては、国や県がどのような支援をして、上手く回収・運搬処分が可能となるように具体的に議論していく必要がある。</p> <p>【指摘】独自調査に参加した住民へのアンケート結果があるが、これをみると、無償のボランティアで回収を続けていくのは難しい面もある。暑さに加え、体力も気力も労力も要る厳しい回収現場を考えると、これを長く続けるとなると非常に大変であり、ここでも人集めについては何か1つ工夫が必要になってくると思う。ボランティアを集めていくという課題がある。</p> <p>【対応】現在、国、自治体、関係機関、地域住民等の連携及び役割分担のあり方について検討中である。個々の課題や長期的な展望等を見据えた上で各方面から意見を収集し、論議を重ねていきたい。</p>
---	---

2	<p>【指摘】資料6で流木の流出防止策が説明されたが、これを続けば浜を狭めることになり限界がある。流木が洪水や台風等の災害で一度に漂着するわけではなく、清掃活動をしていくにしたがってある程度溜まったら、環境省の補助制度を適用することは可能か。</p> <p>【指摘】資料6による流木の流出防止策は、著しく管理を怠ったものという補助金適用外の条件に入ってしまうのか。</p> <p>【対応】当該地域では流木の漂着に対し通常の管理の中で全部除去できるかという、なかなか難しい事情がある。したがってケース・バイ・ケースで考えていくべきであり、まずは申請をする前に色々と環境省に相談するべきである。こういった実態があり、なかなか通常の管理が困難であることを示せば、議論の余地は十分あると考えている。</p>
3	<p>【指摘】日本海での漂着ゴミは、外国製のものは個数にすれば2%しかないと聞いている。一方、沖縄の場合、この八重山諸島の場合は半数以上が外国製である。両者はもう明らかに違っている。したがって、漂着ゴミに対する国の認識を日本海側の認識ではなくて、南西諸島あるいは八重山諸島側に立って判断して欲しい。</p> <p>【指摘】離島からの自動車運搬については8割補助という制度があり活用されている。離島からのゴミの運搬についても何らかの国の援助を制度化して頂きたい。沖縄の漂着ゴミの主体は海外のものであり、これは沖縄県と市町村が負担するものではないというのを強調して、何とか対策をまとめていけないか。</p> <p>【指摘】今回のモデル調査によって、海岸のゴミの漂着量や処理費が具体的に明らかになる。そして、その数字を基にして、今現在、海岸の漂着ゴミの処理に対して実際に使われている予算がどれ位で、実際にこれから処理しようすると予算がどれだけ必要で、その差額はどれ位あるのか。足りない分についてどの様に対応していくのかについての議論が想定される。</p> <p>【指摘】海岸の防潮林の中に溜まったゴミによる防潮林への被害も重要。それからもたらされる動植物への被害であるとか、農林水産への被害、漂着ゴミの溶剤が溶け出したものによる環境汚染、水質や土壌への汚染の度合いとか、あと観光地が汚れることによる観光への影響等、全てを考慮していくと大きなマイナスになっていく。この離島における漂着ゴミの問題というのは、特別に予算を作って処理していくと同時に、処理をするにしても、資源として戻すような方策での処理の仕方をもっと模索していく必要がある。全国一律ではなくて、その地域に合った方法で実施していくべきである。</p> <p>【対応】今後は現状の課題を整理し、焦点を絞った論議を行っていく必要があり、その上で対策の方向性を示していくべきだと考える。特に、国の補助金制度など今ある制度を活用すればどの程度まで対策できるかについて十分な議論が必要であると考えられる。これがある程度整理をしておかないと、その先の対策については検討し辛い。また、当該地域の場合には、処理施設あるいは処理費が十分でない状況下でいくらボランティアを活用しようとしても、処理ができないため対策が進まないという事情もある。これについては例えば長期的な観点と短期的な観点を持ち、長期的には施設整備を含めた対策を考えていく、短期的には国の補助金制度などを上手く活用していくといった時間軸を分けながら考えていくというのも一つの方法ではないかと考えられる。</p>